せせらぎ三島ロータリークラブ
Seseragi-Mishima Rotary Club

SESERAGI－MISHIMA
ROTARY CLUB
WEEKLY REPORT

クラブ
週　報

2017～2018年度　RI会長　イアンH.S.ライズリー
RIテーマ　　ロータリー：変化をもたらす

クラブテーマ「奉仕・親睦　自分たちにできること」会長　山口辰哉
副会長 石井司人　幹事 宮澤正昭

第1339回 例会
2017.9. 22(金)曇

米山記念館　ホストクラブ：裾野RC
ロータリーソング「我等の生業」

事務所　三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL.055－976－6351 FAX.055－976－6352
http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp
せせらぎ三島ロータリークラブ　検索
例会場　呉竹
TEL.055－975-3210
毎週金曜日　第1・第3 夜間例会

会長挨拶

裾野RC会長　勝又明君

スペインサッカー会初の女性監督のことです。
名前は佐伯夕利子さん1973年生まれの日本人です。
レアル・マドリードで（小学生から高校生の年代）のサッカースクールでコーチを務める。その後プロチームの監督も努めることのできる、指導者資格レベルⅢを2003年に取得し、3部リーグの監督を任された。スペイン最高峰のリーグから数えて4番目のリーグである。このような上位リーグで、男子チームの監督の座に女性が就くのはスペインで初めてのことです。彼女はこのとき29歳でした。多くのかかわりは女性チームに携わってきました。選手の考えを引き出すために、掛ける言葉やタイミングを熟考する、一人ひとりの選手の話に耳を傾ける、一人ひとりの選手たちの喜びや悲しみに寄り添うなど。そのためには自身のコンディションをベストに保つことに心を砕いた。悩みがあったりネガティブな気持ちでいると、最適な言葉は掛けられないし選手たちの繊細な変化にも気づけなくなってしまうからだそうです。この指導法がその後ビジャレアルというクラブに選ばれたときに大いに役に立ったということです。
2014年にクラブの新しい上司が着任し方針が変わった。プレイごとに指導者が答えを出すのではなく、選手一人ひとりに見つけださせるという方針に変わった。ピッチの外から指導者が「そうじゃない」とか指摘することが本当に正しいのか。それよりも選手の判断を尊重し、何よりもまず自分で考えさせる。「サッカーを一番知っているのは自分たちだ。自分たちこそがもっとも的確な判断ができる」この様に指導者のやり方を否定するということで、多くの指導者は（約120人）混乱した。佐伯は前述したように「一人ひとりと向き合い、考えを聞き、思いに寄り添おう」指導法のため、新指導法と交わる部分が大きく方針にこだわりはなく、上司の信頼も増している。
まとめ
「ひとたび指導者資格を取ると、指導者は自分のやり方の"大国"に閉じこもってしまいがちです。特に監督の地位に着くと誰も口出しをしなくなりますから、指導者こそ一番成長しなくなる可能性がある」これは佐伯氏の自分を省みた感想
＊ビジャレアルは人口5万人の市。人口当たりのサッカー場の数が欧州一多い。サッカースタジアムは街の人口の約半数にあたる25000人を収容できる。
＊スペインのプロリーグはレアル・マドリードとバルセロナの2強である。
＊ビジャレアルは国内最高峰のリーグに属する20チームの中でほとんどの年で一桁台の順位に食い込んでいる。

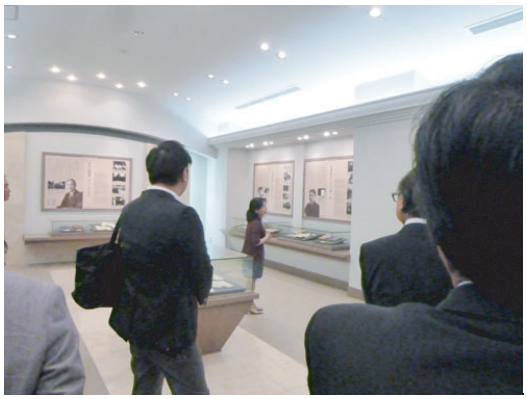
出席報告

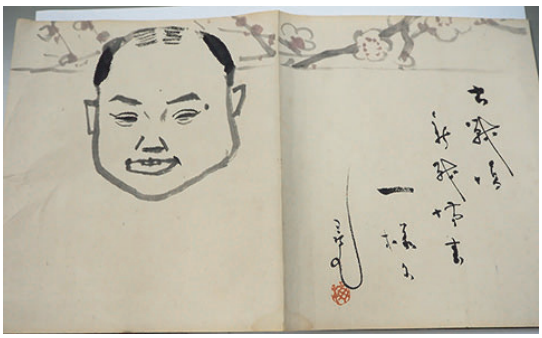
	出席総数	出　席　率	メークアップ	修正出席率
前々回	20/32	62. 50%	26/32	81. 25%
今　回	23/31	74. 19%	会員総数	37名

欠　席　者　　あなたが見えなくて残念でした。
大庭君、加藤君、篠木君、鈴木（真）君、土屋君、原君、中村君、山口（雅）君
（＊出席免除会員の欠席者　太田君、片野君、大房君、兼子君、澤田君、鈴木（政）君）

今日の料理

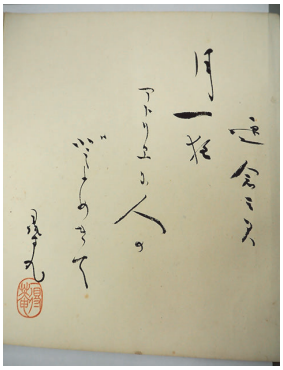
米山梅吉記念館見学





寄せ書き帳
大正10年、梅吉の友人が集まって書いた寄せ書き帳。遅塚冷水（小説家）、巌谷小波（小説家）、和田英作（画家）入沢達吉（医師、随筆家）らが自画像と自作の俳句や漢詩を書いている。梅吉の俳句は「古戦場新戦場春一様に」「月一夜アトリエに人のどよめきて」が掲載されている。

竜舌蘭の写真
昭和6年、下土狩の別邸にあった竜舌蘭が開花した。この知らせを聞いて、梅吉の短歌の師匠歌人佐佐木信綱氏もこの花を見にやって来た。この時梅吉は「故郷の庭に竜舌蘭の花さけるに」と題して短歌を三首詠んでいる。



『幕末西洋文化と沼津兵学校』
昭和9年に発行された米山の著書。

ペーパーナイフ
1935年、ポール・ハリスが来日の記念に東京帝国ホテルの庭に月桂樹を植えた。しかし、時を経て樹勢が衰えていった。帝国ホテル本館取り壊しの際に、他の木と同様破棄されそうになったが、なんとか手を尽くし、挿し木をすることによって月経樹はその生命を継ぐことができた。これは、枯れてしまった原木からできたペーパーナイフ。現在、記念館には月桂樹2世が生育しており、この2世から次世代の挿し木も育ってきている。

米山梅吉記念館ホームページより